

薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. 101

## スターたちの バレエシューズ (1) フランス編

会期 / 2025年2月22日(土) ~ 5月20日(火)  
(※休館日はwebでご確認ください)

企画・構成 / 関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

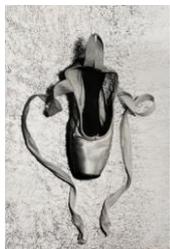
故・薄井憲二氏(1924-2017)の旧宅から、バレリーナのトゥシューズを写した写真が複数発見されました。裏面にはダンサーの名前と生年などが記されています。コレクター、研究者であったのみならず、ダンサーとして自ら踊られていた薄井氏がとりわけ大切にされていたことがうかがえます。

このトゥシューズの所有者であったダンサーたちの資料を「薄井憲二バレエ・コレクション」の中から選出し、「スターたちのバレエシューズ」展をシリーズでお届けします。第1回は「フランス編」。次回以降は、薄井コレクションが所蔵する現役スターダンサー、ウラジーミル・マラーホフ(1968-)のサイン入りバレエシューズの現物も展示予定。バレエに不可欠なシューズの魅力をお楽しみください。

### ジジ・ジャンメール (René [Zizi] Jeanmaire 1924-2020)

フランスのダンサー、歌手、ショービジネス界のスター。本名ルネ。1933年パリ・オペラ座バレエ学校入学、1939年パリ・オペラ座入団、1944年まで在籍。従来のバレリーナの型にはまらず、ローラン・プティによる生き生きとした華麗な振付で最大の成功を収めた(プティとは1954年に結婚)。1946年には新モンテカルロ・バレエでセルジュ・リファールの数作品で主要な役を踊り、1947年バジル大佐のバレエ・リュスの最後のロンドン・シーズンに出演。その後、1948年にプティのパリ・バレエに参加して協力関係が始まり、彼女を一夜にして古典バレリーナから長い手足と短髪のボーイッシュなヒロインに変貌させた名作『カルメン』

(1949)他、多数のプティ作品の初演に主演。1950年代には活動の中心をキャバレーと映画に移し、ショービジネス界で名声を得た。1974年レジオン・ドヌール勲章。



### ジャンヌ・シャラ (Janine Charrat 1924-2017)

フランスのダンサー、振付家。1937年の映画『白鳥の死』に、バレリーナを罠にはめて怪我をさせるパリ・オペラ座の生徒(小ネズミ)役で出演。14歳の時、パリで自身の公演を行い、自作のソロを踊る。1941~44年、ローラン・プティと共に、シャンゼリゼ・バレエ結成の足がかりとなる数々の公演に出演。1945年、同団のためにイーゴリ・ストラヴィンスキー作曲『カード遊び』を振付、20歳にして大成功を収める。1951年、自身のカンパニー「ジャンヌ・シャラ・バレエ(後にバレエ・ド・フランスと改称)」を結成。1961年、『藻』のテレビ収録中、裸火を用いたシャンデリアが衣裳に引火して重度の火傷を負うが、ほぼ1年がかりで舞台に復帰。1962~64年ジュネーヴ大劇場バレエ団監督、1970年パリにバレエ学校を開く。1980~89年ポンピドゥーセンター舞踊監督。1973年レジオン・ドヌール勲章。



### ギレーヌ・テスマール (Ghislaine Thesmar 1943-)

フランスのダンサー。パリ高等音楽院で学び、1961年、クエヴァス侯グラン・バレエで初舞台。フランス国立青年音楽バレエで踊り、1968年、主宰者のピエール・ラコットと結婚。バレエ・ランベール、ローラン・プティのバレエ団、グラン・バレエ・カナディアンを経て、1972~1985年、パリ・オペラ座エトワール。1971年ラコットのテレビ版『ラ・シルフィード』主演、1976年ニューヨーク・シティ・バレエ客演。1986~88年ラコットと共にモンテカルロ・バレエ芸術監督。その後はパリ・オペラ座で教師として活躍。



### 主な出展資料

- ◆ SB-19 ルネ(ジジ)・ジャンメール / 『アルレキナーダ』 / パリ・オペラ座 / フランス / 1941年
- ◆ SB-20 ジャンヌ・シャラ / 『ポールとヴィルジニー』 / 衣裳: マリー・ローランサン / フランス / 1944年
- ◆ PH-CC-22-04 ギレーヌ・テスマール / 『ジゼル』 / パリ・オペラ座 / フランス / 1984年



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用